

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

THE 市町支援通信



あすなろ学園市町支援グループは
途切れのない支援システムの構築を推進しています

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援を目指し、あすなろ学園は多くの市町と共働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ① 発達総合支援室(保健・福祉・教育の一元化室)・機能の設置
- ② 市町の保健・福祉・教育行政と共働した保育所・幼稚園での早期発見・支援
発達チェック(CLM)と個別の指導計画の普及定着 市町の療育システムの構築
- ③ みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成支援

保育所・幼稚園での適切な支援のために・・・

あすなろ学園では、平成19年度に CLM と幼児期の個別の指導計画を発行してから毎年見直しを行っています。今年度も、改訂しましたのでお知らせします。CLM と幼児期の個別の指導計画は、各市町の窓口の方に配布しました。ご不明な点はあすなろ学園市町支援グループにお問い合わせください。

CLMってなに？

*CLM：チェック(C)リスト(L) in 三重(M)の略です。

気になる子の早期発見・支援のために、保育所・幼稚園などでの遊びや活動を通して、担任が子どもの発達や困り感、気になる行動を把握するためのチェックリストです。

チェックするのが目的ではなく、「幼児期の個別の指導計画」を作成し、日常の保育の中で適切に支援するためのツールです。具体的な支援方法を考えた保育のプログラムを作成します。

改訂のポイント

- ・チェックリストは2種類。クラス単位で使っていただけます。
 - ①「CLM 3歳児クラス用」②「CLM 4歳児クラス・5歳児クラス用」です。
 - ・チェックの判断基準は(全くない あまりない 少しある よくある)の4段階です。
 - ・チェック項目も見直しました。それぞれの項目の意味や具体的な子どもの姿を解説してありますので、参考にしてください。
 - ・幼児期の個別の指導計画のセットには、作成の仕方の流れを一覧に表しました。
 - ・具体的な指導方法は、“クラス全体の支援・環境の整え”と“個別の支援”にわけて、まとめられるようにしました。
- * 参考例を本通信の最終ページに掲載していますので、ご覧ください。

保育・教育に求められる目利き、腕利き

CLMと個別の指導計画の作成について

8月24日から3日間、県庁舎にて、9月27日には県尾鷲庁舎にて、講演会「保育・教育に求められる目利き、腕利き」とワークショップ「CLM&個別の指導計画の作成について」を行いました。総勢317名の保育所、幼稚園、小学校、中学校の先生方、行政関係者の方にご参加いただきました。講演会では、子どもの困り感や子どもの見方、どの子にもわかりやすく規律のある保育のための支援のあれこれ（環境設定、クラス全体の支援、個別の支援）についてお伝えしました。ワークショップでは、事例をもとに、短い時間でしたが、経験豊富なアイディア等を活発に出し合い、「個別の指導計画」を作り上げていただきました。



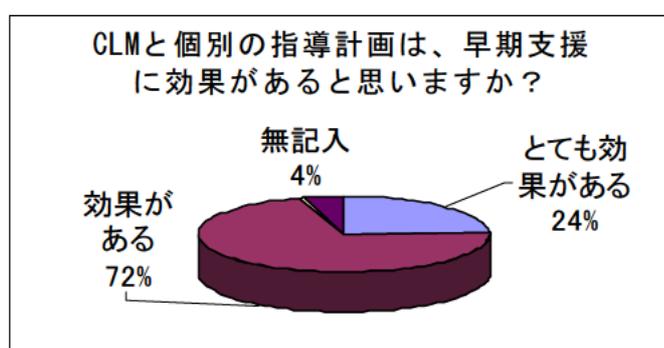
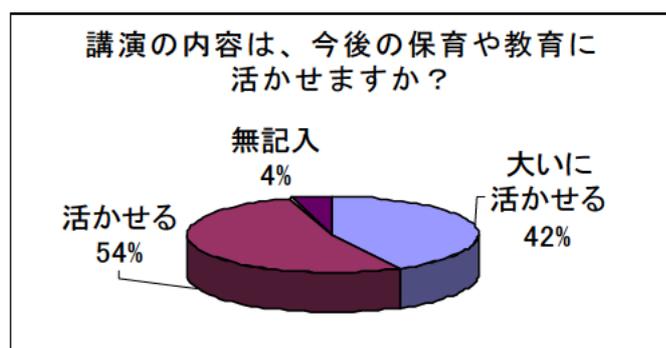
事例のエピソードから、要因や気持ち、目標、具体的な指導方法を考えています。



担任と子どもの動きをロールプレイし、明日から使える計画かを検証しています。

<アンケート結果>

総参加者数：317名 アンケート回収率：81%



- ・指導計画を作成することで対象児に対するの援助、課題など、明確になり、園の中でも共通理解できる。
- ・現在、気になる子がおり、指導計画を作成することで保育者自身が見通しを持った保育ができそう。
- ・目標が明確になるし、支援も具体的に考えることができる。期間も短くて、取り組み始めやすい。
- ・作成することでその子どものことをしっかりみて、保育の質の向上につながると感じた。
- ・実際の園でよくある課題をグループワークできたことで、理解しやすかった。
- ・繰り返し経験することで、身に付くことが多いと思うので、今後も研修会を開催してほしい。

*多数のご参加、アンケートのご協力ありがとうございました。

みえ発達障がい支援システムアドバイザーの活躍

～先進地からの報告～

志摩市では、平成19年度から取り組んでいる保育所・幼稚園における個別療育、鳥羽市では、今年4月に開設したとばっ子サポートセンター「ほっぷ！」の関係機関との連携活動などみえ発達障がい支援システムアドバイザー（以下、アドバイザー）の活躍を報告します。

志摩市 ふくし総合支援室 保育所・幼稚園での個別療育

ふくし総合支援室の2人のアドバイザー（保育士）は、保育所・幼稚園での個別療育をしています。

- きっかけ：専門的な療育を受けようとする、遠方まで通わなければならない。

身近な敷居の低いところで、毎日続けることが効果的な療育サービスを考えた。

- 対象：加配保育士が支援している子ども中心（CLMと個別の指導計画を活用）
- 場所：子どもが通っている保育所・幼稚園
- 内容/方法：毎日、15分～20分。プログラムは、あすなろモデル。

アドバイザーは、①療育プログラムを作成 ②担任、加配保育士等に説明 ③担任、加配保育士等に療育のモデルを見せる ④担任、加配保育士等の療育の実践を定期的に訪問、検討会の実施をする。

- 効果：「一定時間座れるようになった」「物を見る力がついた」「大人の指示が聞けるようになった」等の成長が保育所、幼稚園から報告されています。保護者からは、「毎日通っているところで成長が見られてうれしい」「園の先生方がうまく対応してくれる」と喜びの声が聞かれています。

鳥羽市 とばっ子サポートセンター「ほっぷ！」 新たな支援のしくみの立ち上げ

<とばっ子サポートセンター「ほっぷ！」ってどんなところ？>

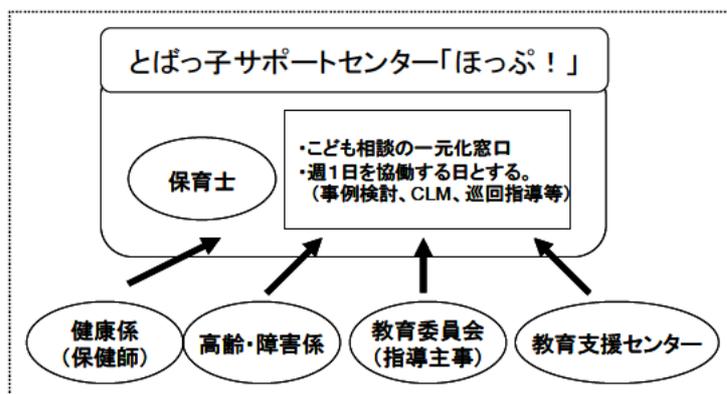
総合子ども相談の一元化窓口。保健師・保育士・教員が協働する拠点。アドバイザー（保育士）2名が常勤。

<週1日の協働日はどんなことをするの？>

図のように、保健師・保育士・教員が集まり、事例検討、CLMを使った巡回指導、学校訪問等を行う。

<効果>

- 横の連携として、現時点での子どもの課題を解決するためのプログラムを検討できる。
- 縦の連携として、幼児期からの子どもの発達、育ちを各ステージの関係者と共有し、途切れのない支援を実践できる。
- 保護者や学校の先生方は、たらい回しにされずに、総合的な窓口として、専門的な相談支援が受けられる。



わがまちでも、ぜひ推進したい、先進的な市町の話をもっと聞きたい、視察に行きたいなどのご希望がありましたら、あすなろ学園市町支援グループ (TEL:059-234-8700) にお問い合わせください。

チェックリスト(CLM)から個別の指導計画作成へ！

<事例> 夏介くん(5歳児)は、次の行動への切り替えが難しく、先生が「今から朝の会です。遊んでいるおもちゃを片づけましょう。」と声をかけても片づけられません。また、プール活動が終わっても、プールから出ません。

絞り込まれたチェック項目 (21) 次の行動への切り替えが悪い

要因や気持ち 見通しが持てない? あそびたい気持ちが抑えられない?

次することに興味を持てない? 話を聞いていない?

目標 みんなと一緒にプールあそびを終わることができる

期間	具体的な指導方法	
7/4 3W 9回	<p><クラス全体の支援・環境の整え></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の前に、プールあそびのプログラムと約束を説明する。 * プログラムをボードに書いて、視覚的にも伝える。必要な場合は絵や写真も用いる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">きょうのプールあそび</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あしバタバタ 2. わにさんあるき 3. すいちゅうじゃんけん 4. じゅうおよぎ 5. たからさがし 6. おわり(ふえがなったら プールからです) <p style="text-align: center;">きがえたひとから、たからとすきなシールとこうかんできます</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> * 活動の最後を宝探しに、「着替えが終わった人から宝と、好きなシールを交換」などお楽しみがあることを伝える。 実際場面では、1つのプログラムが済むごとにボードの字を消して確認していく。 終了の5分前に予告をする。 * 声掛けだけでなく、時計に印をつけ視覚的にも示す。 	<p><個別の支援></p> <ul style="list-style-type: none"> 約束を伝えるとき、「笛が鳴ったら、終わりです。プールから出ます。夏介君もね。」と本児の名前を呼び、意識づける。 本児の好きな虫シールもあることを伝え、次の活動に期待を持たせる。 説明時と同じように、「あと5分でプール遊びは終わりです。笛が鳴ったらプールから出ます。夏介君もね。」と本児の名前を呼ぶ。

* 夏介くんの事例については、チェック項目(21)次の行動への切り替えが悪いに、絞った情報のみを掲載しています。
* 途切れのない発達支援研修会のワークショップで、参加者の方々が作成していただいた計画をもとに作成しました。

2011年11月4日

<発行> 三重県立こども心療センター あすなる学園 広報担当: こどもの発達総合支援室 市町支援グループ
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL: 059-234-8700 FAX: 059-234-9361
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/